

平成24年度
台東区観光統計・マーケティング調査

報 告 書
— 概 要 版 —

平成25年3月
台東区

目 次

第1章 調査の背景と目的	1
1 - 1 . 調査の背景と目的	1
1 - 2 . 観光統計調査及びマーケティング分析の概要	3
第2章 観光統計調査の実施方法及び調査結果	6
2 - 1 . 推計結果概要	6
2 - 2 . 調査結果	9
第3章 マーケティング分析	26
3 - 1 . 分析結果の概要	26
3 - 2 . 消費動向	26
3 - 3 . 来訪者の選好	28
3 - 4 . 東京スカイツリーへの立ち寄り状況等	33

第1章 調査の背景と目的

1-1. 調査の背景と目的

日本の観光を取り巻く動向

我が国の経済社会発展に向けて「観光立国の実現」は国家的課題となっており、観光立国推進基本法の制定（平成18年12月）や観光立国推進基本計画の閣議決定（平成19年6月）を経て、平成20年10月に観光庁が発足された。その後、近年の情勢の変化を踏まえ、平成24年3月30日には新たな観光立国推進基本計画が閣議決定されている。

平成15年度より取り組んできた「ビジット・ジャパン・キャンペーン」により、我が国への訪日外国人旅行者数は着実な増加をみせていたが、平成20年のリーマン・ショック、新型インフルエンザ等による影響で平成21年には一旦減少した。その後は、平成22年に再び増加に転じた。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原発事故による落ち込みがみられたが、持ち直しの兆しがみられ始めている。

図1 訪日外国人旅行者数の推移

資料：平成24年観光白書

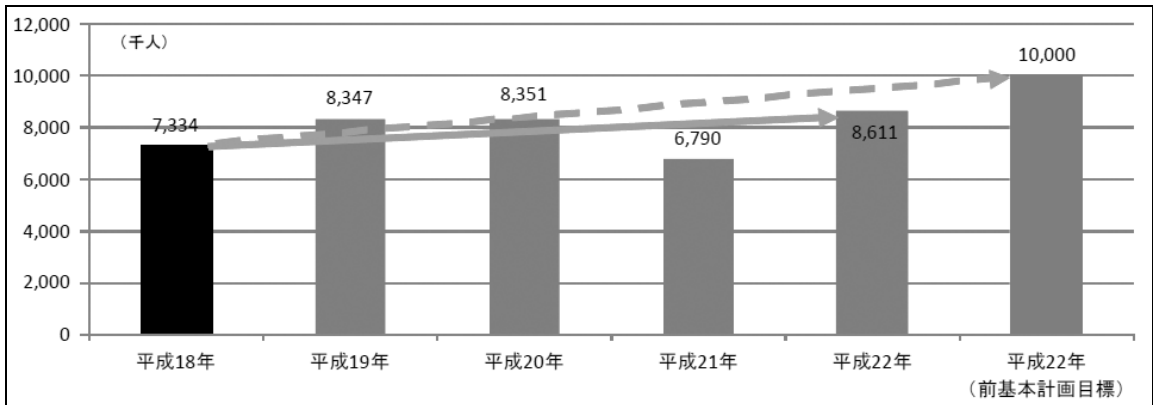


表1 月別述べ宿泊者数と実宿泊者数の推移

資料：観光庁宿泊旅行統計調査（平成23年）

(単位:万人泊、万人)

月別	延べ宿泊者数		うち外国人			実宿泊者数	うち外国人	
	前年比	前年比	前年比	(シェア) ¹⁾	前年比		(シェア) ²⁾	
年間合計	41,723	-	1,842	-	(4.4%)	31,218	1,136	(3.6%)
1月	3,091	-	206	-	(6.7%)	2,328	127	(5.4%)
2月	3,215	-	222	-	(6.9%)	2,423	139	(5.7%)
3月	2,931	-	113	-	(3.8%)	2,165	66	(3.1%)
4月	2,650	-16.1%	53	-81.3%	(2.0%)	1,944	32	(1.6%)
5月	3,349	-9.0%	83	-63.9%	(2.5%)	2,498	52	(2.1%)
6月	3,092	-3.1%	117	-44.6%	(3.8%)	2,299	72	(3.1%)
7月	3,804	0.8%	168	-40.1%	(4.4%)	2,825	105	(3.7%)
8月	5,146	2.7%	163	-37.2%	(3.2%)	3,774	103	(2.7%)
9月	3,675	4.2%	156	-27.8%	(4.2%)	2,746	94	(3.4%)
10月	3,810	0.6%	197	-19.9%	(5.2%)	2,913	121	(4.2%)
11月	3,554	1.8%	181	-16.3%	(5.1%)	2,734	113	(4.1%)
12月	3,407	5.4%	183	-12.8%	(5.4%)	2,570	112	(4.4%)

1) 延べ宿泊者数に占める外国人延べ宿泊者数の比率

2) 実宿泊者数に占める外国人実宿泊者数の比率

3) 平成22年第2四半期の調査より、調査対象を従業者数9人以下を含む全宿泊施設に拡充した。

台東区の観光を取り巻く状況の変化

我が国における観光は、平成 23 年 3 月の東日本大震災による消費の落ち込み、風評被害、外国人観光客の減少など厳しい状況にあった。特に、外国人来訪者は震災及び福島第一原発事故の影響、円高の進行等により大きく減少し、台東区においても大きな影響があった。

一方、羽田空港の再国際化、成田空港へのアクセス向上は外国人来訪者を受け入れる良い条件となった。

平成 23 年 2 月、ジャイアント・パンダの再来園は多くの観光客が訪れ、同年度の上野動物公園の年間来園者数は 400 万人を超える盛況となったほか、ツタンカーメン展など、各美術館・博物館の企画展等の人気により上野公園内文化施設の年間（平成 24 年）来場者が増加した。

また、平成 24 年 5 月、隣接する墨田区に東京スカイツリーが開業し、平成 25 年 3 月で、商業施設を含む東京スカイツリータウン全体の来場者が 4,400 万人を越すなど、本区に関わる観光要因、観光機会も向上し、特に浅草地区への来訪者が増加した。



東京スカイツリー

観光統計調査の目的

平成 22 年 3 月に策定した「台東区新観光ビジョン」では台東区観光の目標とする姿を『本物に会えるまち』とし、台東区が持っている魅力の向上、にぎわいの創出を目指している。このビジョンでは、86 の事業からなるアクションプランを示し、戦略的な展開により、平成 26 年の年間観光客数の目標数値を 5,000 万人と掲げている。

本調査は、本区への誘客促進及び今後の観光ルート開発等に関する観光都市づくりの施策展開に資することを目的に観光統計の整備と、観光客のマーケティング分析を行い、今後の観光施策における基礎資料とするものである。

1 - 2 . 観光統計調査及びマーケティング分析の概要

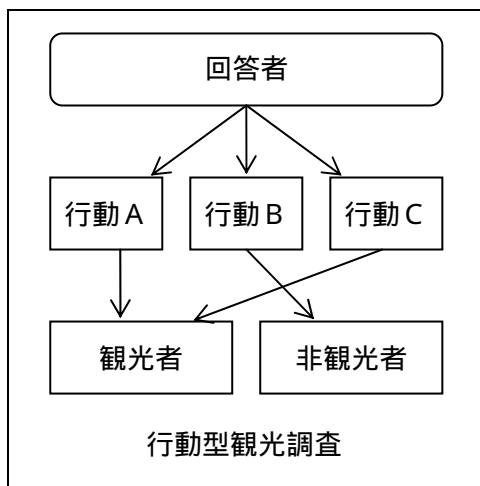
調査の対象

観光政策審議会の答申「今後の観光政策の基本的な方向について」(答申第39号 平成7年6月2日)では『観光』の定義を『余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの』としている。

本調査では、前回の調査と整合させるために、観光行動の定義を「広義」「狭義」とした区分をせず、「ホスピタリティ産業に貢献するすべての非日常的行為」を『観光』と捉え、買い物や食事の他にも仕事のついでに「仕事兼観光」も観光として扱うこととした。

そのため、調査の手法としても、観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準、調査要領」を踏まえ、目的行動による観光の「該当」「非該当」を区別する『行動型観光調査』によるアンケートを実施した。

図 2 行動型観光調査



実施概要

本調査は、「観光統計調査」と「マーケティング分析」により構成され、各概要は以下のとおりである。

表 2 観光統計調査及びマーケティング分析の実施概要

観光統計調査	『共通基準による観光入込客統計』(観光庁)を踏まえて、平成24年1月～12月における台東区内の観光入込客数や観光消費額等について推計を行う。
マーケティング分析	台東区を訪れる来訪者の行動実態やニーズを把握するため、コンジョイント分析の手法を用いて、来訪者の選好を分析する。

これらの実施に際して、基礎情報となる来訪者数や観光動向などの実態を明らかにする必要があるため、各種調査を実施した。

歩行者カウント調査（日本人・外国人）

平成 24 年 1 月～12 月の四半期ごとに、上野地区、浅草地区、谷中地区、浅草橋地区の来訪者数を把握するため、歩行者交通量調査を実施した。調査に当たっては歩行者交通量の総数を把握するとともに、特定の調査地点における日本人・外国人別の交通量調査を実施し、外国人においては居住国の確認を行った。

なお、調査時間帯は、上野地区で 10：00～18：00、浅草地区で 9：00～17：00、谷中地区で 9：00～17：00、浅草橋地区で 9：00～17：00 として実施した。

上野地区については、通勤・通学客が多いことから、調査時間帯を 1 時間遅らせた。

来訪者アンケート（パラメータ）調査（日本人・外国人）

歩行者カウント調査の実施とあわせて、来訪者の観光実態を把握するために、アンケート調査を実施した。アンケートは、日本語票・外国人向けの英語票を来訪者に直接配布し、2,119 票の回収票が得られた。

宿泊施設利用者動向調査（日本人・外国人）

台東区内の主要宿泊施設に調査協力を依頼し、宿泊者を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートは 30 施設の協力のもと、132 票の回収票が得られた。

観光・文化施設の年間来場者数調査

国、東京都、台東区、民間が所有する区内の主要な文化・観光施設に対して、調査票を配布し、平成 24 年 1 月から平成 24 年 12 月までの年間来場者数を調査した。

区内宿泊施設の年間利用者数調査

区内のホテル、旅館、簡易宿所等の宿泊施設に対して、調査票を配布し、平成 24 年 1 月から同年 12 月までの総年間宿泊者数と内数としての外国人宿泊者数を調査した。

鉄道等の年間乗降者数調査

各統計資料をもとに、東京メトロ（銀座線、日比谷線）、つくばエクスプレス、都営地下鉄（浅草線、大江戸線）、東武鉄道（東武スカイツリーライン）、京成電鉄（成田スカイアクセス線）、東京都観光汽船（浅草乗船場）の利用者数のデータを収集した。

観光イベントの年間来場者数調査

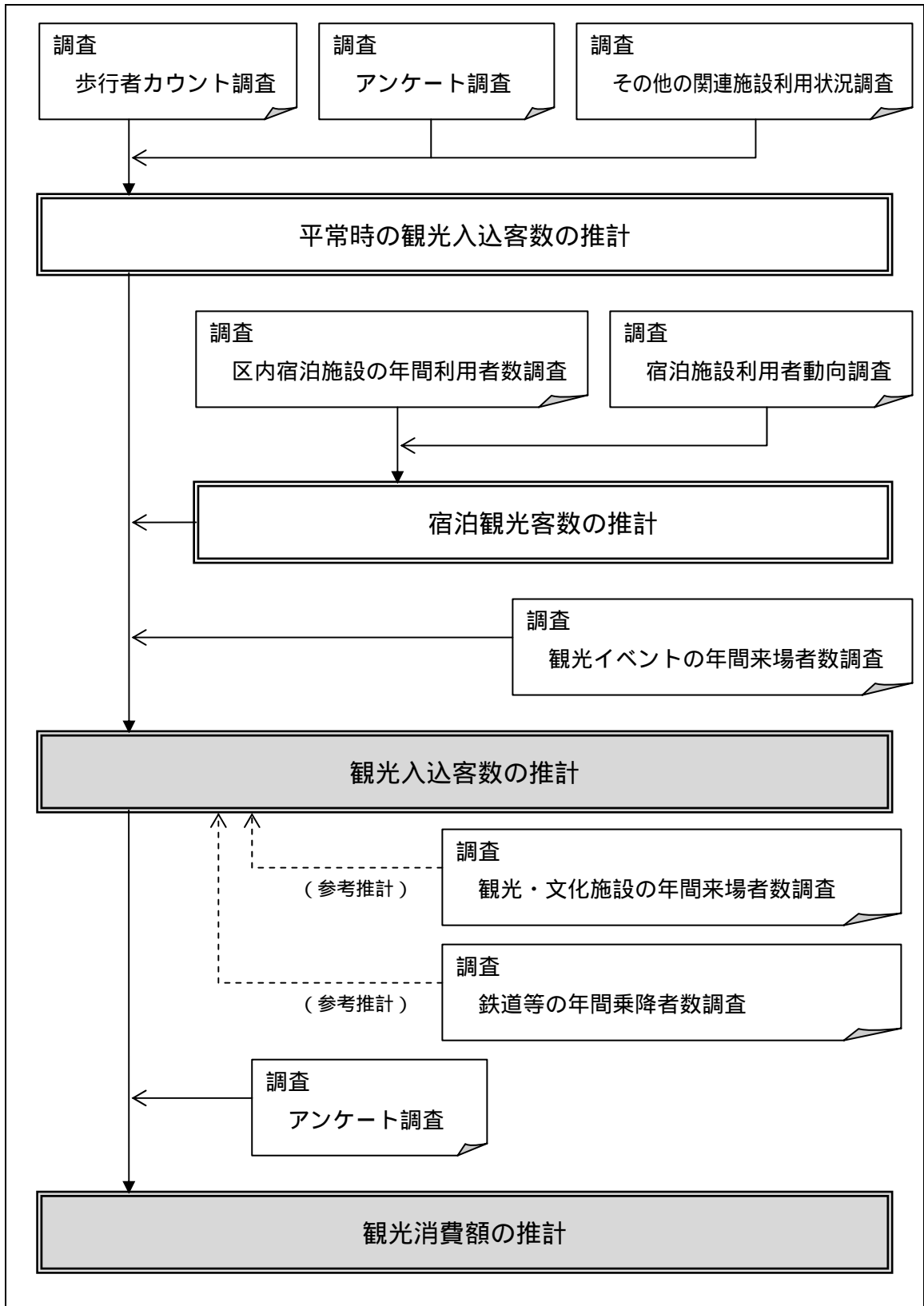
区内の代表的（寺社祭事を含む）で、区外からの来訪者が多いイベントに着目し、主催者発表のデータを収集した。

その他の関連施設利用者調査

上野恩賜公園駐車場等の観光入込客数推計に関連する施設の年間利用者数等のデータを収集した。

観光統計調査における前述の各種調査の関係を体系的に整理すると、下図のとおりとなる。

図 3 観光統計調査の体系の概要



参考推計については、この概要版では省略している。

第2章 観光統計調査の実施方法及び調査結果

2-1. 調査結果概要

平成24年の観光客数の推計結果

台東区内の観光客数の推計結果は、表5に示すとおり、約4,400万人となっている。

表3 年間観光客数の推計結果（平成24年）（単位：万人）

		年間観光客	地区ごとの計
上野地区	平常時の観光入込客数	1,335.3	1,576.3
	イベント来訪者	207.8	
	日本人宿泊観光客	33.2	
アメ横	平常時の観光入込客数	457.2	457.2
浅草地区	平常時の観光入込客数	1,279.2	2,075.1
	イベント来訪者	761.3	
	日本人宿泊観光客	34.6	
谷中地区	平常時の観光入込客数	93.8	125.4
	イベント来訪者	31.6	
浅草橋地区	平常時の観光入込客数	62.6	94.3
	イベント来訪者	31.7	
その他地区	イベント来訪者	38.7	38.7
外国人観光客	外国人宿泊客	15.9	15.9
	(内数：外国人来訪者数)		(425.5)
合計			4,382.9

平成24年の観光消費額の推計結果

年間観光消費額の推計結果は約3,000億円、観光総入込客数で除した1人当たりの平均消費額は約6,800円/人となっている。

表4 年間観光消費額の推計結果（平成24年）

		平均消費額	観光客数	合計消費額
飲食	上野	1,845.0 円/人 ×	2,525.0 万人 =	465.9 億円
	浅草	1,457.7 円/人 ×	2,872.5 万人 =	418.7 億円
	谷中	916.8 円/人 ×	190.4 万人 =	17.5 億円
	浅草橋	353.6 円/人 ×	98.7 万人 =	3.5 億円
買物	上野	1,292.8 円/人 ×	2,525.0 万人 =	326.4 億円
	浅草	1,744.6 円/人 ×	2,872.5 万人 =	501.1 億円
	谷中	647.3 円/人 ×	190.4 万人 =	12.3 億円
	浅草橋	2,817.0 円/人 ×	98.7 万人 =	27.8 億円
入場料等	上野	1,229.8 円/人 ×	2,525.0 万人 =	310.5 億円
	浅草	369.9 円/人 ×	2,872.5 万人 =	106.3 億円
	谷中	24.7 円/人 ×	190.4 万人 =	0.5 億円
	浅草橋	0.0 円/人 ×	98.7 万人 =	0.0 億円
その他	上野	318.2 円/人 ×	2,525.0 万人 =	80.3 億円
	浅草	2,166.2 円/人 ×	2,872.5 万人 =	622.2 億円
	谷中	77.1 円/人 ×	190.4 万人 =	1.5 億円
	浅草橋	1,130.7 円/人 ×	98.7 万人 =	11.2 億円
宿泊		7,594.8 円/人 ×	83.7 万人 =	63.6 億円
観光消費額 合計				2,969.3 億円
観光入込客数の推計		(台東区 計)		4,382.9 万人
1人当たりの消費額		(観光消費額 合計) ÷ (観光入込客数の推計)		6,774.7 円/人

上表の観光客数は延べ数。

平成 24 年の平均滞在時間の推計結果

上野地区と浅草地区における平均滞在時間をみると、前回と概ね同様の滞在時間となっている。前回に比べて他地区への立ち寄りを行う来訪者の割合が今回調査では増加していることから、回遊性の向上がみられたものの、滞在時間への影響はみられなかった。

しかし、台東区内外の新たな観光スポットの進展による観光客の滞在時間や消費動向の変化については今後の課題である。

表 5 平均滞在時間

	平成24年	平成22年
上野地区 滞在時間	3時間55分	3時間50分
浅草地区 滞在時間	2時間30分	2時間30分
全区平均	3時間00分	3時間10分

前回調査結果との比較

前回の調査結果と比較すると、平成 24 年では上野地区及び浅草地区の増加が目立つ。

これは、上野地区では文化・観光施設来場者の増加、また、浅草地区では東京スカイツリー開業による来訪者の増加が要因として考えられる。

表 6 年間観光入込客数の比較

(単位：万人)

		今回		前回		増減
		平成24年	地区ごとの計	平成22年	地区ごとの計	
上野地区	平常時の観光入込客数	1,335.3	1,576.3	1,232.9	1,461.4	114.9
	イベント来訪者	207.8		215.1		
	日本人宿泊観光客	33.2		13.4		
アメ横	平常時の観光入込客数	457.2	457.2	434.9	434.9	22.3
浅草地区	平常時の観光入込客数	1,279.2	2,075.1	1,222.1	1,963.6	111.5
	イベント来訪者	761.3		728.8		
	日本人宿泊観光客	34.6		12.7		
谷中地区	平常時の観光入込客数	93.8	125.4	140.1	140.1	-14.7
	イベント来訪者	31.6		-		
浅草橋地区	平常時の観光入込客数	62.6	94.3	57.2	57.2	37.1
	イベント来訪者	31.7		-		
その他地区	イベント来訪者	38.7	38.7	26.7	26.7	12.0
外国人観光客	外国人宿泊客	15.9	15.9	26.7	26.7	-10.8
	(内数：外国人来訪者数)		(425.5)		(413.0)	(12.5)
	合計		4,382.9		4,083.9	299.0

今回の調査から谷中地区と浅草橋地区へイベント来訪者数を組み入れた。

また、年間観光消費額を比較しても、前回調査結果よりも総額は増加しており、年間観光入込客数 1 人当たりの消費額は、前回調査の 6,348.8 円/人に対して、今回調査では 6,774.7 円/人となっている。なお、総務省統計局による消費者物価指数（「都区部」の「持家の帰属家賃を除く総合」）は、平成 22 年の 100.0 に対して平成 24 年は 99.0 であることから、平成 22 年の平均消費額を平成 24 年にスライドさせると 6,285.3 円/人となり、物価変動を加味すると約 489.4 円/人の増加と捉えることができる。

表 7 年間観光消費額の比較

		平成24年(今回)	平成22年(前回)	増減
飲食	上野	465.9 億円	292.0 億円	173.9 億円
	浅草	418.7 億円	356.1 億円	62.6 億円
	谷中	17.5 億円	20.2 億円	-2.7 億円
	浅草橋	3.5 億円	8.3 億円	-4.8 億円
買物	上野	326.4 億円	287.7 億円	38.7 億円
	浅草	501.1 億円	767.9 億円	-266.8 億円
	谷中	12.3 億円	19.9 億円	-7.6 億円
	浅草橋	27.8 億円	17.9 億円	9.9 億円
その他	上野	390.8 億円	252.8 億円	138.0 億円
	浅草	728.5 億円	469.2 億円	259.3 億円
	谷中	2.0 億円	17.5 億円	-15.5 億円
	浅草橋	11.2 億円	10.9 億円	0.3 億円
宿泊		63.6 億円	72.4 億円	-8.8 億円
合計		2,969.3 億円	2,592.8 億円	376.5 億円



アメ横



浅草寺(雷門)



酉の市



羽子板市

2 - 2 . 調査結果

上野地区の観光入込客数の推計

今回の調査では、前回調査で利用した上野仲通りデータを利用できなかったことから、今回の調査で実施した上野公園案内所付近での歩行者カウント調査結果を対比させた推計を行うこととした。

また、平日と休日で異なる来訪者の動向がみられることを踏まえ、平日と休日を区別した推計方を行った。

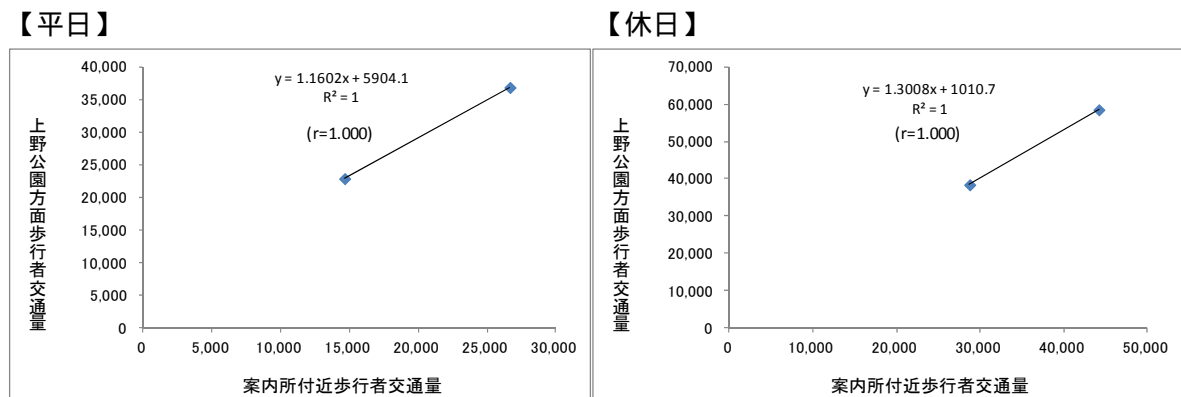
表 8 歩行者カウント調査結果等

月日/曜日	上野公園方面歩行者交通量			
	上野公園(JR口)	上野公園(袴越し)	上野公園方面合計	上野公園(案内所付近)
1月 22日 日	20,232	5,075	25,307	
1月 24日 火	13,759	3,387	17,146	
6月 10日 日	28,397	10,004	38,401	28,743
6月 14日 木	17,700	5,187	22,887	14,638
9月 12日 水	31,421	5,408	36,829	26,655
9月 16日 日	47,561	10,916	58,477	44,176
12月 12日 水	13,669	3,217	16,886	
12月 16日 日	28,229	9,269	37,498	
平日平均	19,137	4,300	23,437	20,647
休日平均	31,105	8,816	39,921	36,460

平日については6月14日と9月12日の歩行者カウント調査結果から、休日については6月10日と9月16日の歩行者カウント調査結果から、次図の回帰式が得られた。(それぞれ、相関係数は1.000)

平日または休日のグラフに示す回帰式に、それぞれの1日当たりの平均歩行者交通量を代入し、得られた1日当たりの上野公園方面歩行者交通量から、平日分の「上野公園方面」の年間歩行者交通量 7,464,750人、休日分の「上野公園方面」の年間歩行者交通量 5,618,808人が算出された。

図 4 各歩行者交通量の関係



年間歩行者交通量 : (平日) 7,464,750人 + (休日) 5,618,808人 = 13,083,558人

また、上野恩賜公園駐車場を經由した来訪者を下表のとおりと推計する。

図 5 上野恩賜公園を利用した車両等からの来訪人数推計

区分	台数 ①	平均乗車人数 ②	推計人数 ③=①×②	
普通車	51,804	3	155,412	平均乗車人数は、「全国観光統計基準」(日本観光協会)を参考に設定
大型車・バス	22,632	40	905,280	
バイク	13,083	1	13,083	
計	87,519		1,073,775	

アンケート調査結果より、「美術館・博物館」「上野動物園」の行動を回答した割合から、「上野地区の総入込客数に占める上野公園来場者割合」を求めたところ 78.2%であり、「台東区民以外の来訪者割合」は 97.0%であった。

「上野公園方面歩行者交通量 + 上野恩賜公園駐車場を經由した来訪者」
 \div 「上野地区の総入込客数に占める上野公園来場者割合」 \times 「台東区民以外の来訪者の割合」
 $= (13,083,558 + 1,073,775) \div 78.2\% \times 97.0\% = 17,560,886$ (人)

上記結果について、実際に観光を実施した来訪者の割合は 91.5%であったことから、
 上野地区の年間観光客数(延べ数) $= 17,560,886 \times 91.5\% = 16,068,211$ (人)

1,606.8(万人) が、平常時の入込客数として推計される。

前回は 1,407.4(万人)であったが、歩行者カウント調査による歩行者数増加が要因となり、平常時の観光入込客数は前回推計値より増加している。

これは、パンダや美術館等の企画展の人気などにより、上野公園内各施設への来場者の増加が要因の一つと考えられる。



西郷隆盛像



恩賜上野動物園

御徒町（アメ横）の観光入込客数の推計

前回調査時に利用した上野中通り商店街御徒町入口に設置されている自動センサーは、全数カウンターが故障したことにより、今回は歩行者カウント調査の結果を踏まえて観光入込客数を推計した。

表 9 歩行者カウント調査結果等

月日/曜日	御徒町方面歩行者交通量	
	アメ横(上野側)	御徒町(昭和通り)
1月 22日 日	13,440	
1月 24日 火	7,466	
6月 10日 日	15,726	12,455
6月 14日 木	8,536	10,590
9月 12日 水	9,579	11,190
9月 16日 日	19,903	10,656
12月 12日 水	10,546	13,610
12月 16日 日	22,282	13,045
平均歩行者交通量	13,435	11,924
日数	366	366
年間歩行者量	4,917,210	4,364,184

また、アンケート調査結果より、「観光目的で来訪した観光客の割合」は 75.6%であり、「台東区民以外の来訪者割合」は 90.5%であった。

「御徒町（アメ横）の年間歩行者交通量」×「観光目的で来訪した観光客の割合」×「台東区民以外の来訪者の割合」= (4,917,210 + 4,364,184) × 75.6% × 90.5% = 6,350,144(人)

以上より、御徒町（アメ横）地区の年間観光客数（延べ数）は 635.0（万人）と推計される。前回は 496.5（万人）であったが、歩行者カウント調査による歩行者数の増加が要因となり、平常時の観光入込客数は前回推計値より増加している。

浅草地区の観光入込客数の推計

今回の調査では前回調査と同様の推計方法による算出を行い、比較対象として東京都観光汽船水上バスの乗船数を利用した。

また、平日と休日で異なる来訪者の動向がみられることを踏まえ、平日と休日を区別した推計方を行った。

なお、都営地下鉄A3出口及び吾妻橋西詰の歩行者については、浅草寺方面の他のカウント地点との重複を避けるため、パラメータ調査で得られた「都営地下鉄を利用し、浅草寺に訪れる来訪者」を除外するためのパラメータ（36.4%）を設定し、「浅草寺方面合計」は雷門前、新仲見世東側、TX 浅草駅、二天文前とあわせて、都営地下鉄A3出口と吾妻橋西詰それぞれにパラメータを加味した歩行者数を合算して計上している。

表 10 歩行者カウント調査結果等

月日/曜日	浅草寺方面歩行者交通量							浅草寺方面合計	水上バス乗
	雷門前	新仲見世東側	TX浅草駅	二天門前	都営地下鉄A3出口	吾妻橋西詰(1月は東詰)			
1月22日 日	23,968	10,326	7,726	9,615			4,464	53,260	1,412
1月24日 火	14,772	6,487	3,163	4,713			4,178	30,656	1,131
6月10日 日	29,292	10,275	8,532	7,395	1,075		10,347	59,651	3,837
6月14日 木	17,576	5,680	3,016	6,426		828	5,680	35,067	1,805
9月12日 水	13,675	5,348	1,951	4,016		661	4,267	26,784	1,567
9月16日 日	27,784	11,701	6,943	6,714	1,241		8,569	56,713	2,984
12月12日 水	14,441	6,388	2,715	3,818		847	5,154	29,546	1,024
12月16日 日	28,520	13,409	9,904	6,838	1,065		8,169	62,033	2,404

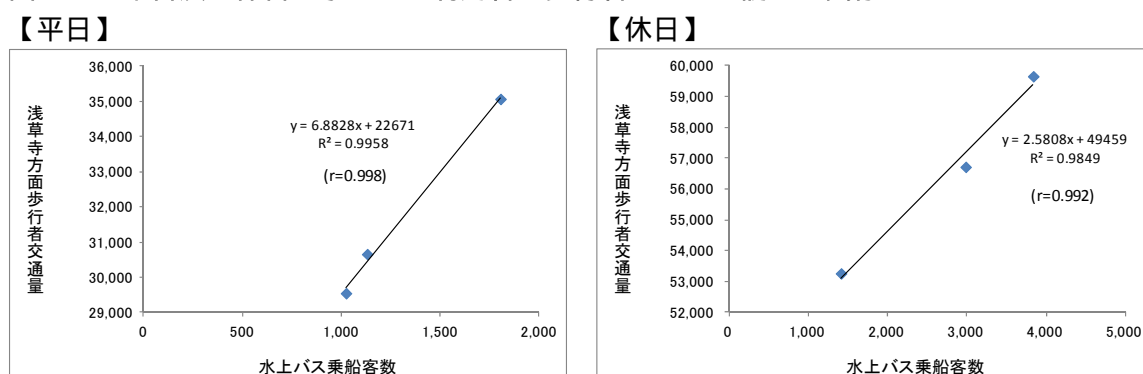
平日については、水上バスの利用状況と異なる歩行者数をみせる9月12日のデータの特異値として除外し、相関関係を求め、下図の回帰式が得られた。(相関係数は0.998)

この回帰式に、平日の年間水上バス利用者数から平日数を除した平日1日当たりの利用者数1,470人/日を代入し、得られた1日当たりの歩行者交通量に、平成24年の平日数250日 を乗じると、平日分の年間歩行者交通量8,197,179人が算出された。

一方、休日についても、水上バスの利用状況と異なる歩行者数をみせる12月16日のデータを特異値として除外し、相関関係を求め、下図の回帰式が得られた。(相関係数は0.992)

この回帰式に、休日の年間水上バス利用者数から休日数を除した休日1日当たりの利用者数2,730人/日を代入し、得られた1日当たりの歩行者交通量に、平成24年の休日数116日 を乗じると、休日分の年間歩行者交通量6,554,532人が算出された。

図 6 平日及び休日の水上バス利用者と歩行者カウント調査の関係



年間歩行者交通量 : (平日) 8,197,179 人 + (休日) 6,554,532 人 = 14,751,711 人

また、アンケート調査において、「浅草地区の総入込客数に占める浅草寺来場者割合」は73.5%であり、「台東区民以外の来訪者割合」は94.1%であったことから、浅草地区の総入込客数は、

$$\text{「浅草寺方面の年間歩行者交通量」} \div \text{「浅草地区の総入込客数に占める浅草寺来場者割合」} \times \text{「台東区民以外の来訪者の割合」} = 14,751,711 \div 73.5\% \times 94.1\% = 18,886,204 \text{ (人)}$$

上記結果について、実際に観光を実施した来訪者の割合は94.2%であったことから、浅草地区の年間観光客数(延べ数) = 18,886,204 × 94.2% = 17,790,804 (人) 1,779.1 (万人) が、平常時の観光入込客数(延べ数)として推計される。

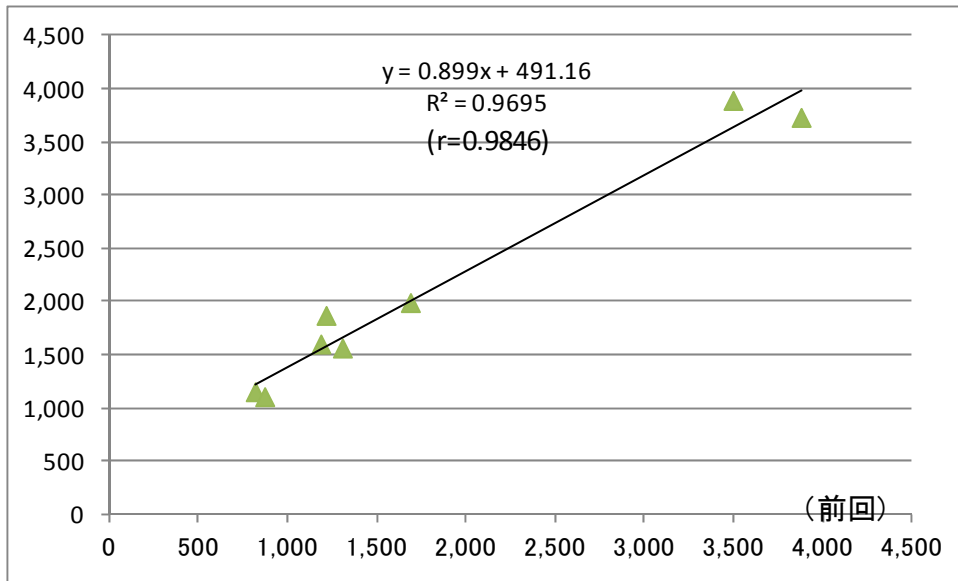
前回は1,552.8(万人)であったが、歩行者カウント調査による歩行者数の増加が要因となり、平常時の観光入込客数は前回推計値より増加している。

谷中地区の観光入込客数の推計

歩行者カウント調査の結果を踏まえて観光入込客数を推計するに当たり、今回の調査では前回調査で調査を行った「千駄木駅」「西日暮里駅」を加味した推計を行うため、これらの地点の補足推計を行うこととした。

前回と今回で調査を実施した箇所である「根津駅」と「谷中銀座」について、前回歩行者交通量と今回歩行者交通量を比較整理すると、図7のとおりとなり、一定の関係性がみられることから、回帰式による比例関係が得られるものと仮定した。

図7 根津駅・谷中銀座での前回と今回の相関



得られた回帰式より、前回調査結果から千駄木駅及び西日暮里駅地点の歩行者量を推計すると下表のとおりとなる。

表 11 千駄木駅及び西日暮里駅の推計

	根津駅		谷中銀座		千駄木駅		西日暮里駅	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回推計	前回	今回推計
6月(平日)	816	1,155	1,686	1,992	1,098	1,478	693	1,114
6月(休日)	1,184	1,603	3,495	3,891	944	1,340	1,034	1,421
12月(平日)	869	1,108	1,213	1,871	1,189	1,560	592	1,023
12月(休日)	1,305	1,565	3,877	3,731	1,753	2,067	1,047	1,432

これらの結果を踏まえて、平日及び休日ごとの平均を求め、平日分及び休日分の日数を乗じることで、各地点のこれらの年間歩行者交通量を合算すると、

(谷中銀座) 974,330 + (上野桜木交差点) 615,010 + (根津駅) 466,744

+ (千駄木駅) 577,414 + (西日暮里駅) 432,782 = 3,066,280 人となる。

表 12 歩行者カウント調査結果等

月日/曜日	谷中方面歩行者交通量				
	谷中銀座	上野桜木交差点	外口根津駅	千駄木駅	西日暮里駅
1月22日 日					
1月24日 火					
6月10日 日	3,891	2,103	1,603	1,340	1,421
6月14日 木	1,992	1,623	1,155	1,478	1,114
9月12日 水	1,907	1,311			
9月16日 日	5,142	2,282			
12月12日 水	1,871	1,509	1,108	1,560	1,023
12月16日 日	3,731	1,946	1,565	2,067	1,432
平日平均	1,923	1,481	1,132	1,519	1,069
休日平均	4,255	2,110	1,584	1,704	1,427
平日日数	250				
休日日数	116				
平日通行量推計	480,750	370,250	283,000	379,750	267,250
休日通行量推計	493,580	244,760	183,744	197,664	165,532
計	974,330	615,010	466,744	577,414	432,782

また、アンケート調査結果より、「観光目的で来訪した観光客の割合」は 49.1%であり、「台東区民以外の来訪者割合」は 94.6%であった。

「谷中地区の年間歩行者交通量」×「観光目的で来訪した観光客の割合」×「台東区民以外の来訪者の割合」= 3,066,280 × 49.1% × 94.6% = 1,424,244（人）

以上より、谷中地区の年間観光客数（延べ数）は 142.4（万人）と推計される。

前回は 149.2（万人）であり、歩行者カウント調査による歩行者数は微増しているが、観光目的の来訪者割合の減少が要因となり、平常時の観光入込客数は前回推計値より微減している。

前回（22年）調査では、「観光目的で来訪した観光客の割合」が 66.7%（平成18年調査を参考）であったが、今回調査では、より精度を高めるため、アンケート調査地点を増やしたほか、来訪目的の設問における選択項目を増やしたことにより、「観光目的で来訪した観光客の割合」が 49.1%となった。このため、後述する他地区への回遊重複率（P16 表14）を含めた最終的な谷中地区の観光客数は前回調査と比較して減少する結果となった。



谷中の街並み



谷中銀座（夕焼けだんだん）

浅草橋地区の観光入込客数の推計

今回の調査では前回調査と同様に、平日の9:00～10:00は業者による搬入等が多いものと仮定した。そのため、当該時間帯の歩行者交通量を除外した上で、平日及び休日ごとに年間歩行者交通量を算定し、推計を行った。

図 8 歩行者カウント調査結果等

月日/曜日	浅草橋方面歩行者交通量	
	浅草橋	(9:00～10:00を除外)
9月12日 水	10,128	8,140
9月16日 日	5,954	5,954
平日平均	10,128	8,140
休日平均	5,954	5,954
平日日数	250	
休日日数	116	
平日通行量推計	2,035,000	
休日通行量推計	690,664	
計	2,725,664	

また、大都市交通センサスによる平成23年度の浅草橋の乗換率は、下表のとおり27.2%であり、乗換による歩行者交通量を除外すると、以下の年間総入込客数が推計される。

表 13 浅草橋駅の乗換率

	終日	
初乗り計	3,824	
最終降車計	28,011	
乗換え計	11,906	27.2%
合計	43,741	

$$\begin{aligned} \text{「年間総入込客数」} &= \text{「年間歩行者交通量」} \times (1 - \text{「浅草橋駅の乗換率」}) \\ &= 2,725,664 \times (1 - 27.2\%) = 1,984,283 \text{ (人)} \end{aligned}$$

また、アンケート調査結果による「観光目的で来訪した観光客の割合」は34.2%であり、「台東区民以外の来訪者割合」は96.5%であったことから、浅草橋地区における総観光入込客数を以下のとおり推計する。

$$\text{「年間総入込客数」} \times \text{「観光目的で来訪した観光客の割合」} \times \text{「台東区民以外の来訪者の割合」} = 1,984,283 \times 34.2\% \times 96.5\% = 654,873 \text{ (人)}$$

以上より、浅草橋地区の年間観光客数(延べ数)は65.5(万人)と推計される。

前回は58.0(万人)であったが、歩行者カウント調査による歩行者数は減少しているが、観光目的の来訪者割合の増加が要因となり、平常時の観光入込客数は前回推計値より微増している。

各地区の年間観光入込客数

各地区における平常時の観光入込客数は地区の重複による来訪者をダブルカウントしている状況のため、地区ごとの重複率を除外して算出する必要がある。

アンケート調査による地区の立ち寄り状況については以下のとおりとなっている。

表 14 各地区における区内他地区への立ち寄り状況（回遊重複率）

	対象者総数	立寄りあり	割合
上野	936	158	16.9%
御徒町(アメ横)	143	40	28.0%
浅草	442	124	28.1%
谷中	279	95	34.1%
浅草橋	114	5	4.4%

他地区へ立ち寄る来訪者が増加しているため、回遊性は前回より高まっていることが伺える。

これらの地区ごとの割合を重複率と捉え、各地区における年間観光入込客数に乗じること、重複を除外した年間観光客数とする。

推計結果を下表のとおり整理する。

表 15 地区重複率を加味した各地区の観光入込客数の推計結果（単位：万人）

		推計結果	回遊重複率	年間観光客
上野地区	平常時の観光入込客数	1,606.8	16.9%	1,335.3
	アメ横	635.0	28.0%	457.2
浅草地区	平常時の観光入込客数	1,779.1	28.1%	1,279.2
谷中地区	平常時の観光入込客数	142.4	34.1%	93.8
浅草橋地区	平常時の観光入込客数	65.5	4.4%	62.6
合計		4,228.8		3,228.1

イベント来訪者数

平成 24 年 1 月～12 月に開催されたイベントの来訪者数は、主催者発表に基づき以下のとおり整理した。なお、その他については、全区的に来訪者が影響するイベントであると考え、各地区とは別に全区集計時に考慮することとした。

表 16 平成 24 年のイベント来訪者数

イベント	イベント来訪者数
浅草寺 初詣(3ケ日)	2,750,000
江戸流し雛	3,300
三社祭700年祭舟渡御	585,000
隅田公園桜まつり	—
隅田川きもの園遊会	1,800
桜橋花祭り	70,000
一葉桜まつり	45,000
浅草流鏑馬	20,000
こんこん靴市	20,000
泣き相撲	13,000
東京ホテル	380,000
三社祭	1,840,000
たいとうにぎわいフェスティバル	70,000
お富士さんの植木市・花のフェスティバル	40,000
下町七夕まつり	418,000
浅草寺ほおつき市	550,000
隅田川花火大会	954,000
浅草夏の夜まつりとうろう流し	10,000
浅草サンバカーニバル	495,000
かっぱ橋道具街まつり	400,000
東京時代まつり	380,000
酉の市	1,050,000
靴のめぐみ祭り市	25,000
歳の市(羽子板市)	—
花川戸はきだおれ市	36,000
浅草地区計	10,588,100
浅草橋紅白マロニエまつり	31,600
鳥越祭	300,000
浅草橋地区計	331,600
うえの桜まつり	2,000,000
うえの夏まつり	500,000
上野地区計	2,500,000
入谷朝顔まつり	400,000
園朝まつり	15,000
谷中まつり	65,000
谷中地区計	480,000
東京マラソン	124,000
したまち演劇祭	85,363
したまちコメディ映画祭	117,057
モノマチ・モノステージ	60,950

「 - 」は数字を伏せているものの、各地区計では集計している。

『東京マラソン』は区の独自推計。

これらの地区ごとのイベント来訪者については、表 15 と同様に回遊による重複を除外するため、表 14 の回遊重複率を乗じて年間観光客を推計した結果を、下表に整理する。

表 17 地区重複率を加味した各地区のイベント来訪者数の推計結果 (単位：万人)

		推計結果	回遊重複率	年間観光客
上野地区	イベント来訪者	250.0	16.9%	207.8
浅草地区	イベント来訪者	1,058.8	28.1%	761.3
谷中地区	イベント来訪者	48.0	34.1%	31.6
浅草橋地区	イベント来訪者	33.2	4.4%	31.7
その他地区	イベント来訪者	38.7	—	38.7
合計		1,428.7		1,071.1

宿泊観光客数の推計

区内宿泊施設と宿泊施設を利用した宿泊客に対してアンケート調査を実施し、得られた回答結果を踏まえて、推計を行った。(宿泊施設への宿泊客数調査結果は 21～22 ページを参照)

日本人宿泊観光客数

宿泊施設利用者動向調査により、宿泊施設から上野地区で 45.3%、浅草地区で 54.5% の回答があった。回答のあった宿泊施設の日本人年間延べ宿泊数をこの回答率で割り返すことで、全体の総数を推計したところ、表 18 のとおりとなった

表 18 宿泊施設利用者動向調査の結果による年間延べ宿泊者数の推計

	日本人年間延べ宿泊数	アンケート調査回収率	推計
上野地区	415,239 [人泊]	÷ 45.3% =	916,642 [人泊]
浅草地区	542,696 [人泊]	÷ 54.5% =	995,772 [人泊]

一方、「宿泊旅行統計調査」(観光庁)による統計データを基に、平成 24 年 7 月～9 月期の実態から平均宿泊日数は以下のとおり算定される。

表 19 観光庁宿泊旅行統計調査による平均宿泊日数の算定

①台東区の日本人延べ宿泊者数(7月～9月計)	369,643
②台東区の日本人実宿泊者数(7月～9月計)	270,683
③台東区の外国人延べ宿泊者数(7月～9月計)	47,835
④台東区の外国人実宿泊者数(7月～9月計)	27,766
⑤日本人平均宿泊日数((①－③)÷(②－④))	1.32
⑥外国人平均宿泊日数(③÷④)	1.72

以上の結果を踏まえ、年間の実人数宿泊者数を推計すると、下表のとおりとなる。

表 20 日本人年間実宿泊者数の推計

	年間延べ宿泊数(推計値)	平均宿泊日数	推計
上野地区	916,642 [人泊]	÷ 1.32 =	694,426 [人]
浅草地区	995,772 [人泊]	÷ 1.32 =	754,373 [人]

なお、この算定値には、『区内に宿泊し、上野・浅草地区を訪れた観光客』も含まれていることから、「平常時の観光客数」との二重カウントを除外する必要がある。

そのため、上野地区及び浅草地区の来訪者の中で、宿泊を伴う回答者の割合（それぞれ、31.5%、34.3%）を除外する必要がある。

表 21 アンケート調査による宿泊地割合

	上野地区		浅草地区	
	人数	割合	人数	割合
上野や浅草などの台東区内	29	31.5%	57	34.3%
台東区外	60	65.2%	101	60.9%
不明	3	3.3%	8	4.8%
計	92	100.0%	166	100.0%

これらの宿泊者を除外した推計値は、以下のとおりである。

表 22 平常時の観光客数との重複を除外した日本人宿泊者数の推計

	年間宿泊人数(実人数)		台東区以外の宿泊率		推計
上野地区	694,426 [人]	×	68.5%	=	475,682 [人]
浅草地区	754,373 [人]	×	65.7%	=	495,623 [人]

あわせて、これらの宿泊者のうち、宿泊施設利用者動向調査から、観光目的で訪れた来訪者の割合（69.8%）を上記推計値に乗じることで、上野地区及び浅草地区の年間宿泊観光客数として推計した。

表 23 宿泊施設利用者動向調査による滞在目的の割合（日本人）

内 容		回答数	回答率
1	芸術鑑賞	11	6.9%
2	飲食	12	7.5%
3	買い物	15	9.4%
4	動物園	7	4.4%
5	イベント参加・見物	9	5.7%
6	親戚訪問・友人訪問	9	5.7%
7	仕事・出張	17	10.7%
8	勉強・習い事	4	2.5%
9	街歩き・散策	21	13.2%
10	寺社・名所・旧跡の観光	14	8.8%
11	東京スカイツリー見物	19	11.9%
12	大衆演劇・落語の鑑賞	3	1.9%
13	その他	18	11.3%
合 計		159	—

表 24 上野地区・浅草地区の日本人年間宿泊観光客数

	年間宿泊実人数		観光目的の行動実施率		推計
上野地区	475,682 [人]	×	69.8%	=	332,026 [人]
浅草地区	495,623 [人]	×	69.8%	=	345,945 [人]
合 計					677,971 [人]

外国人宿泊観光客数

宿泊施設利用者動向調査のアンケート結果を基に、全体の総数を推計したところ表 25 のとおりとなった。

表 25 宿泊施設利用者動向調査の結果による年間延べ宿泊者数の推計

	外国人年間延べ宿泊数		アンケート調査回収率		推計
上野地区	115,715 [人泊]	÷	45.3%	=	255,442 [人泊]
浅草地区	69,226 [人泊]	÷	54.5%	=	127,020 [人泊]

日本人宿泊観光客数の推計と同様に、表 19 の外国人平均宿泊日数を踏まえ、年間の実人数宿泊者数を推計すると、表 26 のとおりとなる。

表 26 外国人年間実宿泊者数の推計

	年間延べ宿泊数(推計値)		平均宿泊日数		推計
上野地区	255,442 [人泊]	÷	1.72	=	148,513 [人]
浅草地区	127,020 [人泊]	÷	1.72	=	73,849 [人]

あわせて、これらの宿泊者のうち、宿泊施設利用者動向調査から観光目的で訪れた来訪者の割合(71.3%)を上記推計値に乗じることで、上野地区及び浅草地区の年間宿泊観光客数として推計した。

表 27 宿泊施設利用者動向調査による滞在目的の割合(外国人)

	内 容	回答数	回答率
1	観光	39	48.8%
2	商用・展示会	9	11.3%
3	会議・研修会	2	2.5%
4	買い物	18	22.5%
5	親類・友人訪問	7	8.8%
6	就学関係	1	1.3%
7	スポーツ・イベント参加	0	0.0%
8	その他	4	5.0%
	合 計	80	—

表 28 上野地区・浅草地区の外国人年間宿泊観光客数

	年間宿泊実人数(推計値)		観光の行動実施率		推計
上野地区	148,513 [人]	×	71.3%	=	105,890 [人]
浅草地区	73,849 [人]	×	71.3%	=	52,654 [人]
	合 計				158,544 [人]

表 29 平成 24 年 (1 月 ~ 12 月) 宿泊客数 (上野地区)

		収容人数 推定	宿泊者数 日本人	宿泊者数 外国人	宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合
上野地区	台東区ホテル旅館協会加盟店	御徒町ステーションホテル	415,239	137,473	52,416	45.3%	21.8%
		上野ファーストシティホテル					
		ホテル パークサイド					
		きぬやホテル					
		ホテル 親月荘					
		ビジネスホテル福寿					
		ホテル 丸谷					
		ホテルきぬや本館					
		小松屋旅館					
		ホテル ニューウエノ					
		ホテル 小松					
		ホテル 福屋					
		ホテル 松本					
		ビジネスホテル やなぎや					
		ホテル 山百合					
		上野ターミナルホテル					
		ニュー伊豆ホテル					
		ホテルニュー東北					
		東金屋ホテル					
		ツーリストホテル					
	チサンホテル上野						
	水月ホテル・鷗外荘						
	旅館勝太郎						
	山中旅館						
	澤の屋旅館						
	アネックス勝太郎旅館						
	非加盟店	ホテル バインヒル 上野	277,766	63,299			
		ホテル ニューグリーン御徒町					
		ホテルサードニクス上野					
		CUBE HOTEL UENO EXPRESS					
		カンデオホテルズ上野公園					
		ベッセルイン上野入谷駅前					
		ホテルブーゲンビリア三ノ輪					
ウィークリーマンション上野							
ヴィラフォンテーヌ 上野							
スーパーホテル上野・御徒町							
サットンプレイスホテル上野							
スーパーホテルJR上野入谷口							
三井ガーデンホテル上野							
ウィークリーマンション東上野							
オークホテル							
ホテル セレッソ							
ホテル アスティル上野							
桜旅館							

表 30 平成 24 年（1 月～12 月）宿泊客数（浅草地区）

		収容人数 推定	宿泊者数 日本人	宿泊者数 外国人	宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合
浅草地区	台東区ホテル旅館協会加盟店	ベルmontホテル					
		ホテル柳橋					
		ホテル マークユーリー					
		ホテル 蔵前					
		ツクバホテル					
		アゴーラプレイス浅草					
		チサンイン浅草					
		ホテル板木屋					
		浅草ビューホテル					
		ホテルサンルート浅草					
		ホテルニュー魚眼荘					
		浅草タウンホテル					
		浅草セントラルホテル 本館		510,720	53,767		
		ホテルユニゾ浅草					
		ホテル雷門					
	旅館 加茂川						
	旅館 三河屋						
	旅館 浅草指月						
	ホテル衣						
	ホテル貞千代						
	ブルーウェーブイン浅草	2,373	542,696	69,226	611,922	54.5%	11.3%
	浅草ホテル和草(旧ホテル板木屋本店)						
	スマイルホテル浅草						
	ドリーミン浅草						
	ホテルミュー						
	東横イン浅草千束						
	マイステイズイン浅草橋						
HOTEL LIVEMAX 東上野							
JA全農ぐんま浅草ビル「グッドぐんまの旬の市」							
一富士旅館							
ホテル 浅草 三河屋							
SOHO 浅草							
ホテル カワセ							
エコノミーホテル ほていや			31,976	15,459			
ビジネスホテル紅陽							
ホテル 寿陽							
東京 Back Packers							
ホテルアクセラ							
ビジネスホテル 加賀舎							
ホテル丸忠CLASSICO							
大東館							
松葉家							
	非加盟店						

収容人数は、宿泊施設側からの回答結果を集計しているが、無回答の施設は収容人員に含めていないので、区内宿泊施設、実収容人員より少ない。

外国人宿泊者数割合は施設ごとに大きく異なり、数字は当該地区での平均を記載。

外国人観光客数の推計

外国人カウント調査を踏まえ、外国人観光客数の推計を行った。なお、この推計は平常時の観光入込客数との重複が生じていることを前提で推計を行っているため、参考推計としての位置づけとした算出を行う。

上野公園案内所付近と浅草寺宝蔵門前で実施した外国人カウント調査結果は、それぞれ表 31、表 32 のとおりである。

表 31 上野公園案内所付近の外国人カウント調査結果

	全数								
	うち外国人	外国人比率							
6/10(日)	28,743	755	2.6%						
6/14(水)	14,638	320	2.2%						
9/12(水)	26,655	390	1.5%						
9/16(日)	44,176	589	1.3%						
平均	28,553	514	1.8%						
外国人の居住国(圏域別構成比) (%)									
	欧州	中国本土	台湾	香港	韓国	東南アジア	北アメリカ	オセアニア	その他
6/10(日)	33.8	6.1	0.9	0.9	1.4	16.4	13.6	8.9	17.8
6/14(水)	33.3	3.7	5.2	1.5	0.7	3.0	23.7	13.3	15.6
9/12(水)	39.9	0.0	3.2	1.6	6.9	8.0	12.8	13.8	13.8
9/16(日)	36.1	2.8	2.0	0.0	0.0	13.3	20.1	12.9	12.9
平均	35.5	3.6	2.3	0.9	1.9	11.8	16.9	11.7	15.3

表 32 浅草寺宝蔵門前の外国人カウント調査結果

	全数								
	うち外国人	外国人比率							
6/10(日)	29,293	5,034	17.2%						
6/14(水)	17,517	4,738	27.0%						
9/12(水)	12,714	3,347	26.3%						
9/16(日)	31,943	6,309	19.8%						
平均	22,867	4,857	21.2%						
外国人の居住国(圏域別構成比) (%)									
	欧州	中国本土	台湾	香港	韓国	東南アジア	北アメリカ	オセアニア	その他
6/10(日)	12.9	15.8	13.3	1.3	0.8	13.7	20.9	6.2	15.0
6/14(水)	19.0	17.6	10.7	3.5	4.4	15.5	15.8	5.3	8.1
9/12(水)	14.2	34.8	5.2	3.4	5.2	3.8	15.0	7.1	11.3
9/16(日)	12.1	32.5	5.9	2.4	3.4	13.8	15.6	5.7	8.5
平均	14.4	24.9	8.9	2.6	3.3	12.5	16.9	6.0	10.6

また、前回と同様に上野地区と浅草地区の年間総入込客数を基に、アンケート調査による浅草寺及び上野公園の来場者数割合から、それぞれ逆算した総入込客数に対して外国人割合を乗じることで、年間の外国人総入込客数を推計し、さらに表 33 のアンケート調査による観光行動実施率を乗じることで、表 34 に示すように、上野地区と浅草地区の外国人観光客数を推計した。

台東区内における外国人観光客数は、これらの合算として、以下のとおりとなっている。

外国人観光客数 = (上野地区) 216,832 人 + (浅草地区) 4,037,914 人 = 約 425.5 万人

表 33 アンケート調査（外国人）結果による観光行動実施率

	上野	浅草	谷中	浅草橋	計
総数	50	39	6	2	97
観光実施	36	37	5	2	80
割合	72.0%	94.9%	83.3%	100.0%	82.5%

表 34 外国人観光客数の推計

【上野地区】

	年間総入込客数
上野地区	13,083,558
上野公園の来場者数割合	78.2%
外国人割合	1.8%
年間外国人総入込数	301,156
観光行動実施率	72.0%
上野地区の外国人観光客数	216,832

【浅草地区】

	年間総入込客数
浅草地区	14,751,711
浅草寺の来場者数割合	73.5%
外国人割合	21.2%
年間外国人総入込数	4,254,915
観光行動実施率	94.9%
浅草地区の外国人観光客数	4,037,914

各地区の観光入込客数の推計結果整理

各地区の観光入込客数、イベント来訪者数、宿泊観光客数を整理し、回遊による重複を除いた推計結果を、下表のとおり整理する。

表 35 各地区の推計結果整理

(単位：万人)

		平成24年	地区ごとの計	回遊重複率	年間観光客	地区ごとの計
上野地区	平常時の観光入込客数	1,606.8	1,890.0	16.9%	1,335.3	1,576.3
	イベント来訪者	250.0			207.8	
	日本人宿泊観光客	33.2			33.2	
アメ横	平常時の観光入込客数	635.0	635.0	28.0%	457.2	457.2
浅草地区	平常時の観光入込客数	1,779.1	2,872.5	28.1%	1,279.2	2,075.1
	イベント来訪者	1,058.8			761.3	
	日本人宿泊観光客	34.6			34.6	
谷中地区	平常時の観光入込客数	142.4	190.4	34.1%	93.8	125.4
	イベント来訪者	48.0			31.6	
浅草橋地区	平常時の観光入込客数	65.5	98.7	4.4%	62.6	94.3
	イベント来訪者	33.2			31.7	
その他地区	イベント来訪者	38.7	38.7		38.7	38.7
外国人観光客	外国人宿泊客	15.9	15.9		15.9	15.9
	(内数：外国人来訪者数)		(425.5)			(425.5)
合計			5,741.2			4,382.9

年間観光消費額

アンケート調査により得られた回答結果により平均消費額を求め、別に推計を行った各地区の観光入込客数（延べ数）を乗じることで、年間観光消費額の推計を行った。

表 36 アンケート調査による地区別平均消費額

（単位：円）

	平均消費額	平均消費額			
		食事・喫茶・飲酒	買い物・お土産	入場料・入館料	その他
上野地区	4,685.8	1,845.0	1,292.8	1,229.8	318.2
うちアメ横のみ	4,830.1	2,112.8	1,637.0	531.5	548.8
浅草地区	5,738.4	1,457.7	1,744.6	369.9	2,166.2
谷中地区	1,665.9	916.8	647.3	24.7	77.1
浅草橋地区	4,201.3	353.6	2,717.0	0.0	1,130.7
全区平均	4,576.6	1,528.9	1,422.5	752.6	872.6

表中の数値は、ゼロ消費を含む平均値。

表 37 年間観光消費額

		平均消費額	観光客数	合計消費額	前回	増減
飲食	上野	1,845.0 円/人 ×	2,525.0 万人 =	465.9 億円		
	浅草	1,457.7 円/人 ×	2,872.5 万人 =	418.7 億円		
	谷中	916.8 円/人 ×	190.4 万人 =	17.5 億円		
	浅草橋	353.6 円/人 ×	98.7 万人 =	3.5 億円		
買物	上野	1,292.8 円/人 ×	2,525.0 万人 =	326.4 億円		
	浅草	1,744.6 円/人 ×	2,872.5 万人 =	501.1 億円		
	谷中	647.3 円/人 ×	190.4 万人 =	12.3 億円		
	浅草橋	2,817.0 円/人 ×	98.7 万人 =	27.8 億円		
入場料等	上野	1,229.8 円/人 ×	2,525.0 万人 =	310.5 億円		
	浅草	369.9 円/人 ×	2,872.5 万人 =	106.3 億円		
	谷中	24.7 円/人 ×	190.4 万人 =	0.5 億円		
	浅草橋	0.0 円/人 ×	98.7 万人 =	0.0 億円		
その他	上野	318.2 円/人 ×	2,525.0 万人 =	80.3 億円		
	浅草	2,166.2 円/人 ×	2,872.5 万人 =	622.2 億円		
	谷中	77.1 円/人 ×	190.4 万人 =	1.5 億円		
	浅草橋	1,130.7 円/人 ×	98.7 万人 =	11.2 億円		
宿泊		7,594.8 円/人 ×	83.7 万人 =	63.6 億円		
観光消費額 合計				2,969.3 億円	2,592.8	376.5
観光入込客数の推計		(台東区 計)		4,382.9 万人	4,083.9	299.0
1人当たりの消費額		(観光消費額 合計) ÷ (観光入込客数の推計)		6,774.7 円/人	6,348.8	425.9

第3章 マーケティング分析

3 - 1 . 分析結果の概要

結果の概要

アンケート調査の中で、各地区で来訪者に望ましい観光地像として、あらかじめ設定した8つの「仮想観光地」から選んでいただいた中から、来訪者の選好を把握する手法として、今回調査でもコンジョイント分析の手法を用いた。

第2四半期（6月時点）での調査結果と比べて第3四半期（9月時点）での調査結果は傾向が異なる内容もみられた。特に浅草地区では6月時点では「混雑度」を重要視する傾向が強かったものの、9月時点では「食事環境」を重要視する傾向が強まっている。

また、アメ横とあわせて上野地区では、6月時点で「商店」は『「高級感のある店が多い」方が望ましい』と捉える来訪者が多かったが、9月時点では『「庶民的な店が多い」方が望ましい』と捉える来訪者が多くなっており、時系列的に消費を抑えたい心理が来訪者に働いている傾向が強まっていることが伺える。

6月から9月にかけての変化の要因として、特定することは困難であるが、東京スカイツリーの開業による観光客の消費動態が影響を受けていることも1つの要因であるものと推察される。

3 - 2 . 消費動向

消費行動の区分

台東区への来訪者を対象に実施した観光統計調査では、来訪目的とあわせて消費動向の質問を設定し、買い物（予定を含む）動態を把握することで、観光客の消費行動を分析する。

『意図ある消費行動』とは、本調査では「行動目的に応じて消費する行動」として定義し、表38のとおり整理する。

表 38 意図ある消費行動の実施の有無（上野地区及び浅草地区）（単位：人）

タイプ	上野地区		浅草地区	
	平成24年	平成22年	平成24年	平成22年
『意図ある消費行動』あり	421 (38.1%)	153 (41.5%)	316 (50.8%)	172 (55.1%)
『意図ある消費行動』なし	683 (61.9%)	216 (58.5%)	306 (49.2%)	140 (44.9%)
計	1,104 (100.0%)	369 (100.0%)	622 (100.0%)	312 (100.0%)

意図ある消費行動による消費額等

上野地区及び浅草地区の来訪者の活動タイプ別に、来訪者の飲食や買物に係る消費金額を集計した結果は、表 39 のとおりであった。

表 39 消費行動タイプ別の平均消費額

	上野地区		浅草地区		台東区全域	
	飲食	買物	飲食	買物	飲食	買物
『意図ある消費行動』あり	3,015 円	4,261 円	2,796 円	4,306 円	2,877 円	4,437 円
平均消費額	1,845 円	1,293 円	1,458 円	1,745 円	1,529 円	1,422 円

上野地区は御徒町（アメ横）を含む

総じて、ゼロ消費（消費しなかった）を含む平均消費額と比べると、前回と同様に『意図ある消費行動』を伴う観光客の消費額が高い傾向にある。

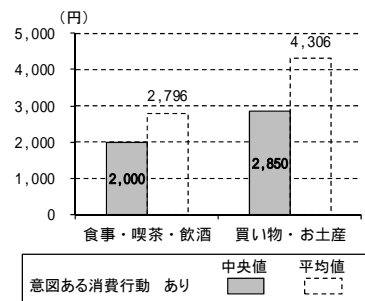
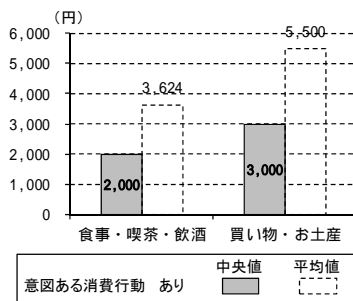
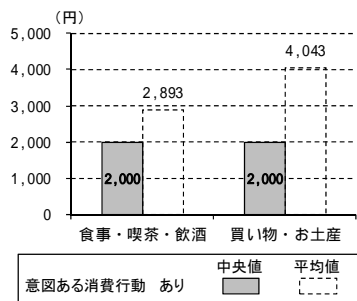
各地区の「食事・喫茶・飲酒」と「買い物・お土産」について、ゼロ消費を除いた平均消費額と消費額の中央値については、図 9 に示すとおりである。また、ゼロ消費を含む平均消費額については、図 10 に示すとおりである。

図 9 ゼロ消費を除く平均消費額

【上野（アメ横含まない）】

【アメ横】

【浅草】



【谷中】

【浅草橋】

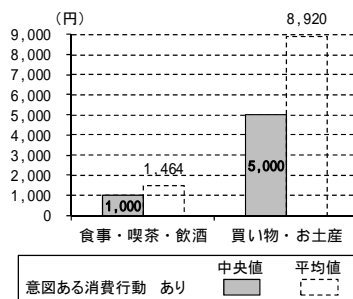
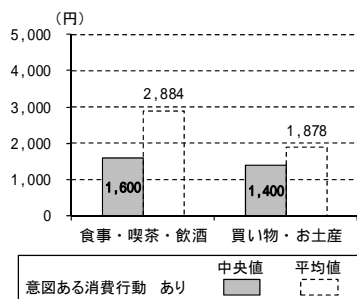
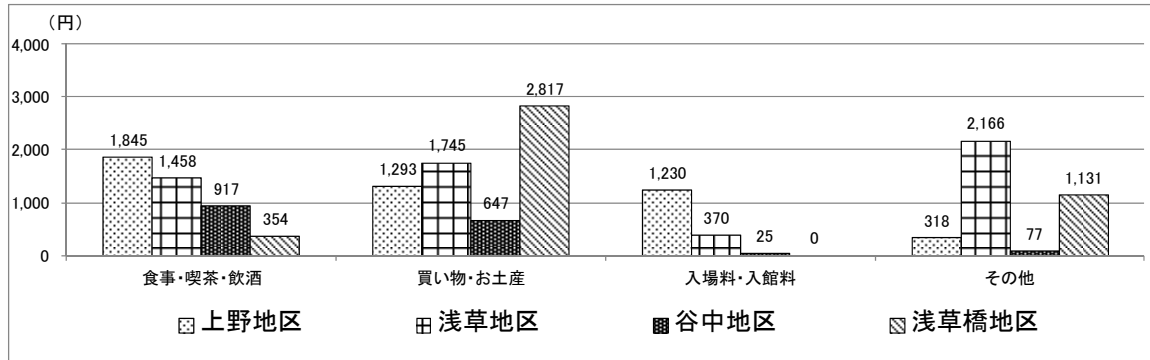


図 10 ゼロ消費を含む平均消費額



3 - 3 . 来訪者の選好

コンジョイント分析による観光客の選好把握

観光統計調査の一環として、台東区に来訪した観光客を対象に、コンジョイント分析で用いる「プロファイル」を列挙した質問を設定し、回答者自身の「選好」を把握することによって、観光客が求める観光地像を分析する。

コンジョイント分析は、商品開発の際に行われるマーケットリサーチで用いられる手法であり、「消費者にとって重要な商品の特性は何か」、「商品の特性をどの水準に設定すれば消費者の効用（満足度）は高まるか」といった課題に答える手法である。

今回の調査では、「上野」「浅草」「谷中」「浅草橋」の4地区への来訪者に対して、各地区の「特性」を踏まえた「プロファイル」を設定して、以下の4つの属性を組み合わせた8通りのプロファイルを「仮想の観光地」として質問することで、来訪者の「選好」を把握した。

表 40 プロファイルを構成する4つの「属性」と2つの「水準」

		水 準	
属 性	雰囲気	文化に親しみ、学べる	活気があり賑やか
	食事環境（価格）	手頃な食事（1,000円）	上質な食事（3,000円）
	混雑度	混雑している	混雑していない
	商店	高級感のある店が多い	庶民的な店が多い

「浅草」及び「浅草橋」地区では『昔の懐かしさを感じる』とした

表 41 8つの仮定の観光地プロフィール（水準の組み合わせ）

観光地	観光地の			
	雰囲気	食事環境（価格）	混雑度	商店
A	文化に親しみ、学べる	手頃な食事（1,000円）	混雑している	高級感のある店が多い
B	文化に親しみ、学べる	手頃な食事（1,000円）	混雑している	庶民的な店が多い
C	文化に親しみ、学べる	上質な食事（3,000円）	混雑していない	高級感のある店が多い
D	文化に親しみ、学べる	上質な食事（3,000円）	混雑していない	庶民的な店が多い
E	活気があり賑やか	手頃な食事（1,000円）	混雑していない	高級感のある店が多い
F	活気があり賑やか	手頃な食事（1,000円）	混雑していない	庶民的な店が多い
G	活気があり賑やか	上質な食事（3,000円）	混雑している	高級感のある店が多い
H	活気があり賑やか	上質な食事（3,000円）	混雑している	庶民的な店が多い

なお、プロフィールの構成は、2つの水準をもつ属性が4つあるため、本来 2^4 通り（=16通り）の組み合わせが想定されるが、回答者の負担を考慮し、「プロフィール」の選択に偏りがでないように8通りの「仮定の観光地」を設定した。

以下に、地区別の分析結果を整理する。

上野地区

上野地区におけるコンジョイント分析に際し、消費特性の異なる「上野公園」と「アメ横」は区別して分析することが望ましいことから、両者を区分して考察する。

上野公園における観光客を対象とした調査では、『部分効用値』でみると「文化に親しみ、学べる」「手頃な食事（1,000円）」であることが「好ましい」と判断され、重要度でみると「雰囲気」を重視する傾向がみられる。

また、A～Hまでの8つの仮定観光地の中では、魅力を感じる観光地として「B」「A」の順で評価されており、「雰囲気」「食事環境（価格）」「混雑度」の水準が共通している。特に「文化に親しみ、学べる」の水準をもつプロフィールほど、全体効用が高くなっていることが特徴である。

部分効用値...個々の要素の影響度合いであり、本調査においては観光地を選択する際に重視され得る属性の度合いとなる。

全体効用.....消費者のニーズに対する充足度であり、各属性を総合的に捉えた評価となる。

表 42 部分効用値と重要度（上野公園）

属性	水準	部分効用値	重要度
雰囲気	文化に親しみ、学べる	0.193	44.790%
	活気があり賑やか	-0.193	
食事環境	手頃な食事(1,000円)	0.139	32.191%
	上質な食事(3,000円)	-0.139	
混雑度	混雑している	-0.096	22.155%
	混雑していない	0.096	
商店	高級感のある店が多い	-0.004	0.864%
	庶民的な店が多い	0.004	
(定数項)		1.750	

表 43 仮想観光地の全体効用（上野公園）

観光地	観光地の				全体効用	順位
	雰囲気	食事環境(価格)	混雑度	商店		
A	文化に親しみ、学べる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.73	2
B	文化に親しみ、学べる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.93	1
C	文化に親しみ、学べる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.65	4
D	文化に親しみ、学べる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.65	3
E	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.54	6
F	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.54	5
G	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.07	8
H	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.08	7

御徒町（アメ横）

アメ横における観光客を対象とした調査では、『部分効用値』でみると「文化に親しみ、学べる」「手頃な食事(1,000円)」であることが「好ましい」と判断され、重要度でみると「雰囲気」を重視する傾向がみられる。

また、A～Hまでの8つの仮想観光地の中では、魅力を感じる観光地として「B」「A」の順で評価されており、「雰囲気」「食事環境(価格)」「混雑度」の水準が共通している。特に「文化に親しみ、学べる」「手頃な食事(1,000円)」の水準をもつプロフィールほど、全体効用が高くなっていることが特徴である。

表 44 部分効用値と重要度（アメ横）

属性	水準	部分効用値	重要度
雰囲気	文化に親しみ、学べる	0.191	49.478%
	活気があり賑やか	-0.191	
食事環境	手頃な食事(1,000円)	0.173	44.844%
	上質な食事(3,000円)	-0.173	
混雑度	混雑している	-0.019	4.894%
	混雑していない	0.019	
商店	高級感のある店が多い	0.003	0.785%
	庶民的な店が多い	-0.003	
(定数項)		1.750	

表 45 仮想観光地の全体効用（アメ横）

観光地	観光地の				全体効用	順位
	雰囲気	食事環境(価格)	混雑度	商店		
A	文化に親しみ、学べる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.85	2
B	文化に親しみ、学べる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.88	1
C	文化に親しみ、学べる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.54	3
D	文化に親しみ、学べる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.53	4
E	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.50	5
F	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.50	6
G	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.12	7
H	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.11	8

浅草地区

浅草地区における観光客を対象とした調査では、『部分効用値』でみると「手頃な食事(1,000円)」「混雑していない」であることが「好ましい」と判断され、重要度でみると「食事環境(価格)」を重視する傾向がみられる。

また、A～Hまでの8つの仮想観光地の中では、魅力を感じる観光地として「B」「F」の順で評価されており、「食事環境(価格)」「商店」の水準が共通している。特に「手頃な食事(1,000円)」の水準をもつプロファイルほど、全体効用が高くなっていることが特徴である。

表 46 部分効用値と重要度（浅草地区）

属性	水準	部分効用値	重要度
雰囲気	昔の懐かしさを感じる	0.099	24.938%
	活気があり賑やか	-0.099	
食事環境	手頃な食事(1,000円)	0.152	38.062%
	上質な食事(3,000円)	-0.152	
混雑度	混雑している	-0.106	26.541%
	混雑していない	0.106	
商店	高級感のある店が多い	-0.042	10.460%
	庶民的な店が多い	0.042	
(定数項)		1.750	

表 47 仮想観光地の全体効用（浅草地区）

観光地	観光地の				全体効用	順位
	雰囲気	食事環境(価格)	混雑度	商店		
A	昔の懐かしさを感じる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.60	4
B	昔の懐かしさを感じる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.90	1
C	昔の懐かしさを感じる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.51	6
D	昔の懐かしさを感じる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.60	5
E	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.62	3
F	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.70	2
G	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.10	8
H	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.19	7

谷中地区

谷中地区における観光客を対象とした調査では、『部分効用値』でみると「文化に親しみ、学べる」「手頃な食事(1,000円)」であることが「好ましい」と判断され、重要度でみると「雰囲気」を重視する傾向がみられる。

また、A～Hまでの8つの仮想観光地の中では、魅力を感じる観光地として「B」「D」の順で評価されており、「雰囲気」「商店」の水準が共通している。特に「文化に親しみ、学べる」の水準をもつプロフィールほど、全体効用が高くなっていることが特徴である。

表 48 部分効用値と重要度（谷中地区）

属性	水準	部分効用値	重要度
雰囲気	文化に親しみ、学べる	0.125	40.674%
	活気があり賑やか	-0.125	
食事環境	手頃な食事(1,000円)	0.089	29.234%
	上質な食事(3,000円)	-0.089	
混雑度	混雑している	-0.050	16.399%
	混雑していない	0.050	
商店	高級感のある店が多い	-0.042	13.692%
	庶民的な店が多い	0.042	
(定数項)		1.750	

表 49 仮想観光地の全体効用（谷中地区）

観光地	観光地の				全体効用	順位
	雰囲気	食事環境(価格)	混雑度	商店		
A	文化に親しみ、学べる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.62	3
B	文化に親しみ、学べる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.81	1
C	文化に親しみ、学べる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.54	5
D	文化に親しみ、学べる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.63	2
E	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.47	6
F	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.56	4
G	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.19	8
H	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.28	7

浅草橋地区

浅草橋地区における観光客を対象とした調査では、「昔の懐かしさを感じる」「手頃な食事(1,000円)」であることが「好ましい」と判断され、「雰囲気」の重要度が最も高いことから、「雰囲気」を重視する傾向がみられる。

また、A～Hまでの8つの仮想観光地の中では、魅力を感じる観光地として「B」「A」の順で評価されており、「雰囲気」「食事環境(価格)」「混雑度」の水準が共通している。特に「昔の懐かしさを感じる」の水準をもつプロフィールほど、全体効用が高くなっていることが特徴である。

表 50 部分効用値と重要度（浅草橋地区）

属性	水準	部分効用値	重要度
雰囲気	昔の懐かしさを感じる	0.244	50.919%
	活気があり賑やか	-0.244	
食事環境	手頃な食事(1,000円)	0.122	25.481%
	上質な食事(3,000円)	-0.122	
混雑度	混雑している	-0.090	18.828%
	混雑していない	0.090	
商店	高級感のある店が多い	-0.023	4.773%
	庶民的な店が多い	0.023	
(定数項)		1.750	

表 51 仮想観光地の全体効用（浅草橋地区）

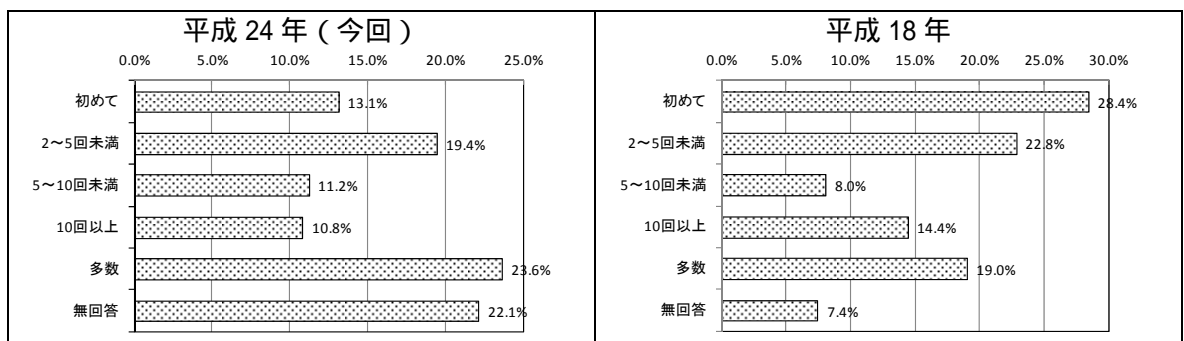
観光地	観光地の				全体効用	順位
	雰囲気	食事環境(価格)	混雑度	商店		
A	昔の懐かしさを感じる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.75	2
B	昔の懐かしさを感じる	手頃な食事(1,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.98	1
C	昔の懐かしさを感じる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.69	4
D	昔の懐かしさを感じる	上質な食事(3,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.73	3
E	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	高級感のある店が多い	1.45	6
F	活気があり賑やか	手頃な食事(1,000円)	混雑していない	庶民的な店が多い	1.49	5
G	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	高級感のある店が多い	1.02	8
H	活気があり賑やか	上質な食事(3,000円)	混雑している	庶民的な店が多い	1.07	7

3 - 4 . 東京スカイツリーへの立ち寄り状況等

台東区への来訪頻度の変化

台東区への来訪回数について、平成 18 年度の調査結果と比較すると、図 11 のとおりである。「初めて」の来訪者数の割合が減少し、「5～10 回未満」「多数」の割合が増加していることから、リピーターが定着している傾向が伺える。

図 11 台東区への来訪回数の変化



東京スカイツリーへの立ち寄りに伴う回遊状況

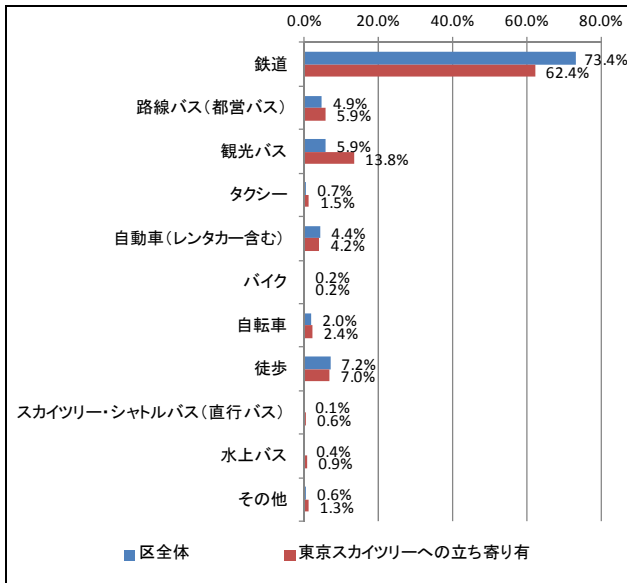
東京スカイツリーへの立ち寄り状況としては、浅草地区で約 54%の来訪者が立ち寄っており、上野地区では約 16%の来訪者が立ち寄っている。

また、東京スカイツリーに立ち寄っている来訪者の移動手段の構成比と比較すると、観光バスによる割合が増えていることから、ツアー客などによる来訪者が多いことが伺える。

表 52 東京スカイツリーへの立ち寄り状況

	上野地区	浅草地区	谷中地区	浅草橋地区
総数	1,104	622	279	114
東京スカイツリーへの立ち寄り有	177	338	82	10
割合	16.0%	54.3%	29.4%	8.8%

図 12 来訪地区までの移動手段



東京スカイツリーに立ち寄っている来訪者の訪れる地区をみると、台東区内では浅草や上野が比較的多くなり、区外では秋葉原への来訪が比較的多い。

図 13 東京スカイツリーに立ち寄った来訪者の来訪地区

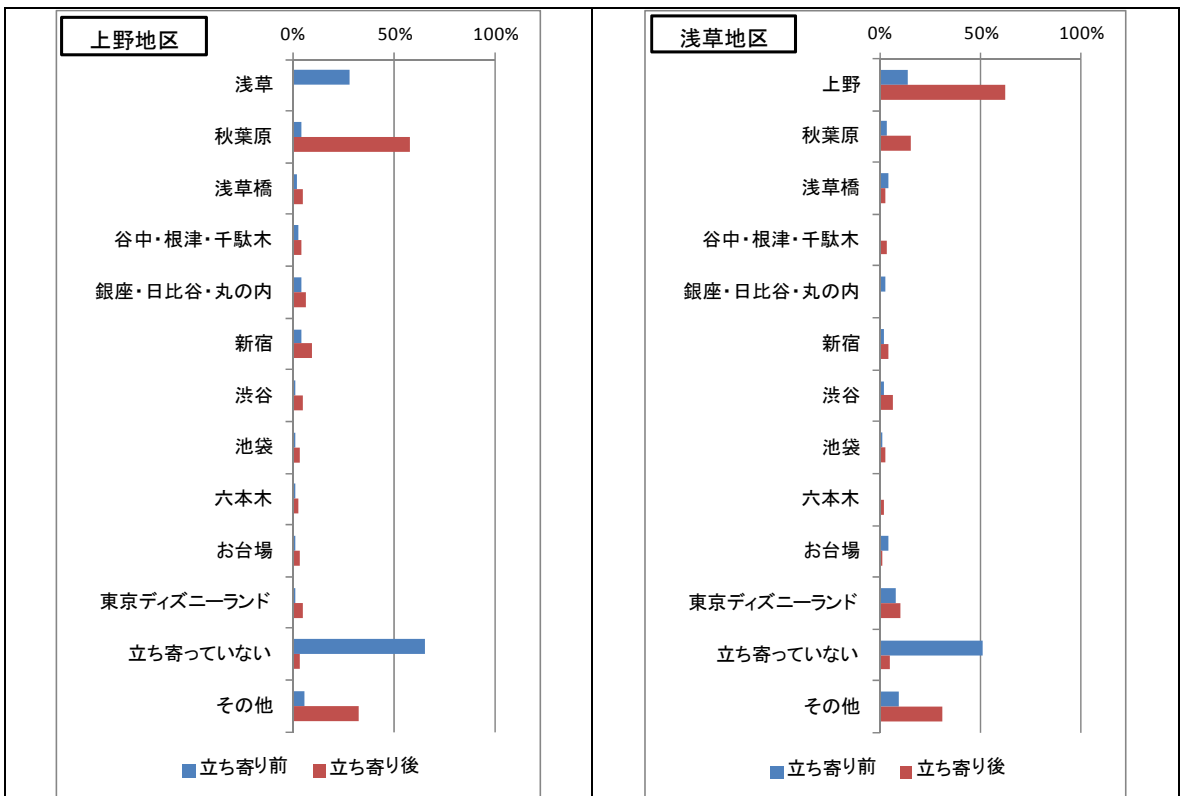
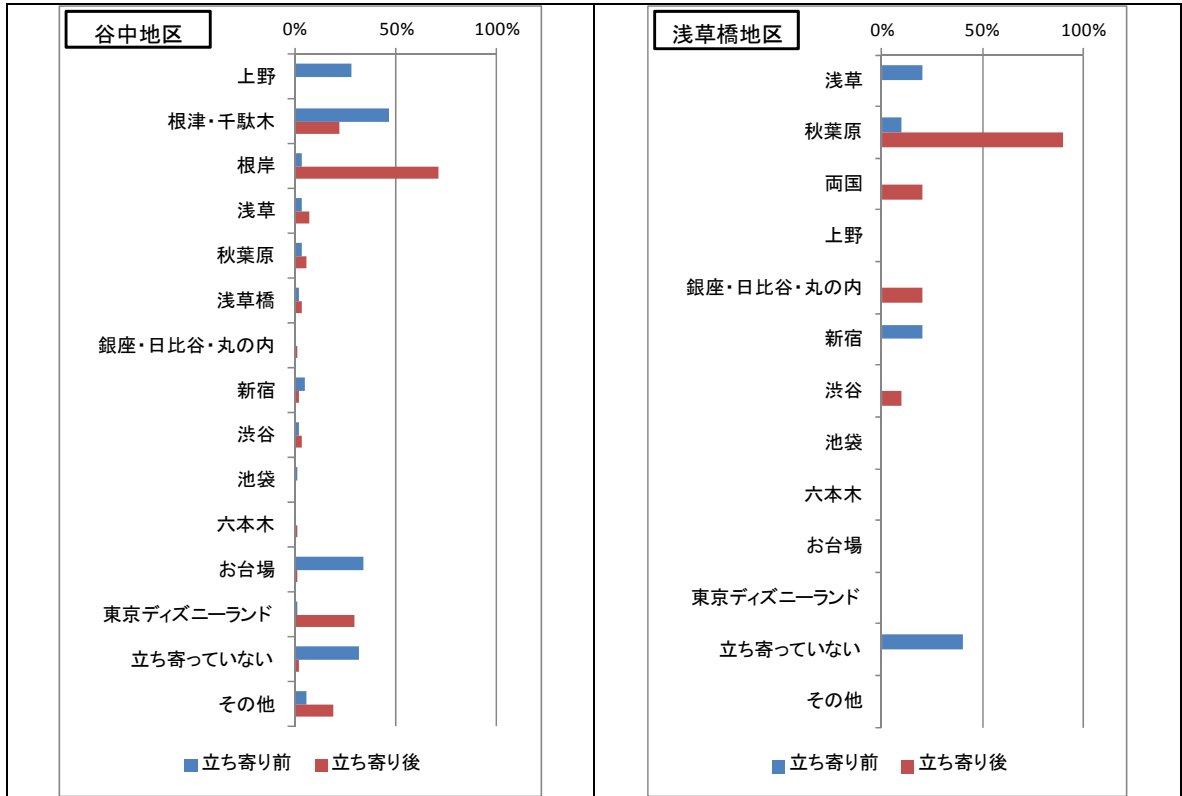


図 13 東京スカイツリーに立ち寄った来訪者の来訪地区（続き）



一方、東京スカイツリーへの立ち寄り状況から消費を見比べると、下表のとおりである。総じて、東京スカイツリーへ立ち寄る来訪者が消費行動を伴っており、中央値でみると買い物等で消費額が高くなっている。

これは、来訪者が東京スカイツリーなど区外を含めた消費を含めた可能性も考えられるが、平均でみると飲食での増加がみられ、前述のコンジョイント分析との結果を考慮すると、ソラマチなどの食事環境を高いと感じる来訪者が、本区では食事に係る費用を抑えたいという考えが影響しているものと推察される。

なお、浅草寺（雷門前）における歩行者カウント調査結果を前回調査時と比較すると、図 15 に示すように、平成 24 年 6 月時点にかけて歩行者数が増加しており、東京スカイツリーの開業効果による増加と考えられる。

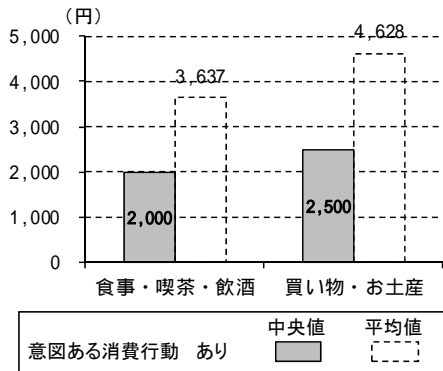
表 53 東京スカイツリー立寄り状況による消費行動タイプ別の平均消費額

	立ち寄りあり		立ち寄りなし		台東区全域	
	飲食	買物	飲食	買物	飲食	買い物
『意図ある消費行動』あり	3,637 円	4,628 円	2,595 円	4,356 円	2,877 円	4,437 円
平均消費額	1,847 円	1,749 円	1,419 円	1,309 円	1,529 円	1,422 円

平均消費額：ゼロ消費を含む

図 14 東京スカイツリー立寄り状況による平均消費額

【東京スカイツリーへの立ち寄りあり】



【東京スカイツリーへの立ち寄りなし】

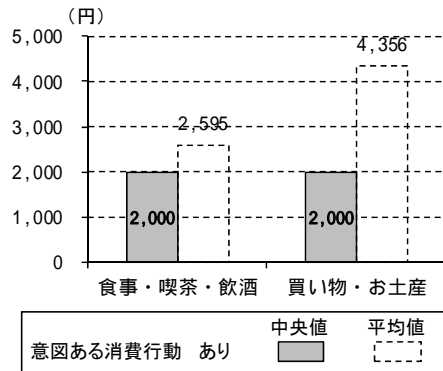
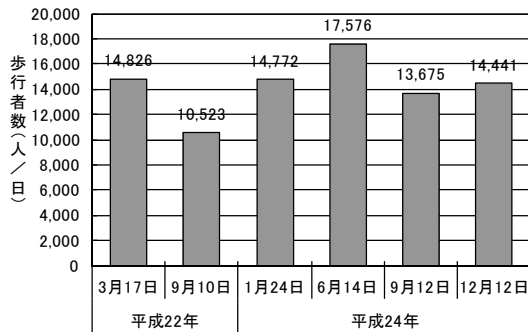
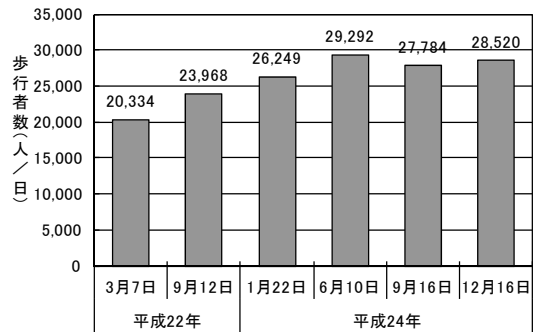


図 15 浅草寺（雷門前）の歩行者カウント調査（前回調査との比較）

【平日】



【休日】



台東区観光統計・マーケティング調査 報告書
概要版

平成 25 年 3 月発行

編集・発行 台東区文化産業観光部にぎわい計画課
〒110 - 8615 東京都台東区東上野 4 丁目 5 番 6 号

TEL 03 - 5246 - 1111

平成 24 年度 登録 第 99 号

調査協力 昭和株式会社